

## 第9回 石狩川下流幌向地区 自然再生ワークショップ 議事概要

日時：2025年6月17日（火）10:00～12:00

場所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」会議室

出席者

矢部 和夫（札幌市立大学 名誉教授）座長

木村 浩二（雪印種苗株式会社 環境緑化部 緑化事業課課長）森

下 剛志（空知総合振興局 地域創生部 主幹）

鈴木 玲（石狩川流域湿地 水辺・海岸ネットワーク 代表）外

間 貞治（合同会社 八面六臂 代表）

萬谷 俊哉（札幌開発建設部 江別河川事務所 所長）

坂元 直人（株式会社エコテック（※河川協力団体）取締役）

事務局

札幌開発建設部 江別河川事務所

㈱ドーコン（※業務受注者）

### ■ これまでの活動報告

#### (1) 幌向地区自然再生の取り組み経緯（資料-1）

事務局より、幌向地区自然再生の経緯とこれまでの取り組み状況を説明した。

（意見交換）

特に意見、質問なし

#### (2) 湿原再生・利活用ミーティングの活動報告

##### 1) 湿原再生ミーティングの活動報告（資料-2）

矢部座長より自然再生事業により幌向地区がどのような群落動態となったか説明するとともに、事務局よりこれまで導入した植物の定着・生育状況の評価結果を説明した。

（矢部座長より報告）

- ・ 幌向再生地の群落動態は、ススキ群落、アキメヒシバ群落を除いて湿生群落が定着している。目標とするサロベツ湿原のコバギボウシ群落とは異なるヤチヤナギ群落が形成され徐々に拡大していることが特徴的である。
- ・ 2016年以降、ヤチヤナギ群落の構成種であるヌマガヤ、トマリスゲ、ミカヅキグサ、ヤチヤナギ、コバギボウシはいずれも導入したボグ種であるが、これらは年々増加しており、このことからボグの基盤群落が形成され増加したと評価できる。次の課題はミズゴケ属を増やすことである。

（意見交換）

- ・ 再生地の植物群落は、ヨシ、ススキが増加しているとのことだが、今後の見込みや対応方針はどのように考えているか。

ーミズゴケが定着してくれば放っておいてよい。ボグにヨシ、ススキは生育できないので、幌向再生地の全体をヨシ、ススキが覆うことはない。部分的に生育しているのは湿原として当然なのでそれ程心配していない。一方、シラカンバは状況によって伐採が必要となるかもしれない。(矢部座長)

## 2) 利活用ミーティングの活動報告 (資料-3)

事務局よりこれまでの利活用活動を振り返るとともに、利活用施設の整備内容を説明した。また、外間氏からヤチヤナギの利活用事例を説明した。

(外間氏より報告)

- ・ ヤチヤナギソーセージ、ヤチヤナギビールは、南幌町の特産品に選定された。今後町内に広めていきたい。
- ・ ヤチヤナギソーセージは空知信金協賛による若手デザイン家のU29 (アンダー29) デザインパッケージの対象に選定された。新しい人材を活用しながら展開していきたい。

(意見交換)

- ・ イベント毎に人が集まっているが、リピーターとして湿原保全活動に繋がる人材が増えていかない。この 10 年間は国交省のバックアップがあったが、第二ステージとなる今後は新しい人材が加わるとよい。
- ・ 南幌中学校等、町内の学習活動に繋げていきたいと考えている。現在学校と協議中である。また、南幌養護学校にも里親制度の協力をお願いしている。自分ひとりでは限界があるので地域の方々と協力していきたい。

## ■ 今後の連携体制について

### (1) 事業完了後の連携体制について (資料-4)

河川協力団体である坂元氏より、事業完了後の活動の連携体制と活動内容を説明した。

(意見交換)

- ・ 国がはじめた事業でもあるので、今後も年に 1 回か 2 年に 1 回くらいの頻度で成果を報告したい。論文にも取りまとめて発表していきたいと考えている。
- ・ 先ずは町内の実働部隊を増やすため、町内に知ってもらう活動を継続したい。中学校や養護学校に声をかけている。
- ・ NPO活動として湿地の植物で、しめ縄づくり等の文化継承の取り組みや食の活動を行っている。ゼンテイカの花を薬膳料理などで美味しく食べたり、アトピー性皮膚炎や乾燥肌の改善に効果があるとされるセイタカアワダチソウで入浴剤をつくる等のイベントを行っているが、ここでもやれそうだった。美容と外来種駆除活動を兼ねた取り組みも考えられる。またことし9年目になる仙台での事例だが、5年目くらいから関わる人や組織の幅が広がって参加する人が増えた。長く継続できる取り組みをつづけたい。
- ・ NPO 活動として、しめ縄づくり等の文化的な取り組みを行っている。ゼンテイカを食べてみるイベントやセイタカアワダチソウはアトピー効果が期待できる入浴剤になる。美容と外来種駆除活動を兼ねた取り組みも考えられる。仙台の事例では 9 年目くらいから参加する人が

増えた。長く継続できる取り組みをつづけたい。

- ・ 幌向再生地に導入された苗はほとんど種からつくったものである。自分の分身が導入されている想いがある。育苗が上手くいかなかった種もあるが、それも学習になる。今後も苗づくりに協力していきたい。

## (2) 環境省自然共生サイトの紹介（資料-5）

事務局より環境省で取り組んでいる自然共生サイトの事業内容を説明した。

### （意見交換）

- ・ 市町村が積極的に関わらないと、大きな取り組みはできないのではないか。
  - －特定の団体より市町村が窓口となる方が、公平性、企業研修の誘致等の面でメリットがあると思う。7月に企業を対象として幌向再生地を紹介する機会があるので、意見を聞いてみたい。支援金は、計画に基づいて使用目的が決められている。工事等はできない。
- ・ 幌向再生地だけでなく石狩川流域など大きなエリアで取得することはできないのか。
  - －確認する。（事務局）

以上